小学校における特別支援教育「校内研修会」の実際

藤瀬　教也

Conducting special support educational lectures and conferences in elementary schools

Noriya Fujise

Ⅰ．校内研修会の概要

特別支援教育が制度化され６年が経つ。幼稚園、小・中学校、高等学校（以下小中学校等）においても特別支援教育が実施されてきている。小中学校等の各学校において、特別支援教育校内研修会が実施されている。筆者は特別支援学校在職時代に、小中学校等の校内研修会の講師として依頼され、それぞれの小中学校等の特別支援教育コーディネーターと連携して、職員へのアンケートを実施し学校のニーズを明らかにして、研修会の内容を企画していった。

小学校での校内研修事前アンケートより、「望んでいる研修の内容」については、目の前の児童をどう理解し、どう指導していくかという具体的なことを望む声が大半だった。また、「あなたが課題と思っていること」を記述した中からは、保護者との共通理解や連携に悩んでいる教師が多く、児童の情報の引き継ぎなど校内のシステムとしての支援体制が不十分であるという意見が多かった。

本報告では、研修依頼が多い小学校について、学校のニーズに応じて、研修会を大きく２つのタイプ「基礎・演習タイプ」と「主体的・実践的タイプ」に整理した。また、「基礎・演習タイプ」は、講義や疑似体験を中心に行う「講義、体験型」と講師が体験した具体的なケースを用いての「ケース会議演習型」とに分けることができる。研修会後の振り返りシートから研修対象者の気づきと変容を紹介する。

Ⅱ．校内研修会の実際

１．基礎・演習タイプ

１）講義、体験型

支援のポイント（研修会資料より）

・子どもを変える＝自分が変わる

子どもにとっては最大の環境である周囲の大人が、特性を知って対応を変えることが子どもの行動変容に直結する。

・二次障がいを防ぐのは大人の役割

子どもが困っていることに気付かず、特性に応じた支援をしなければ、いじめを受けたり、失敗経験を重ねたりして自信をなくし、不登校などの二次障がいを引き起こす場合がある。

・通常の学級で教育を受けるメリット

同世代の子ども達の文化を知ることができる。

周囲に行動のモデルとなる子がいる。

教師が説明することで、その子理解を社会に広めることができる。

「みんなちがって、みんないい」共生社会の構成者を育てることができる。

・保護者との連携

『北風と太陽』

保護者の家庭での大変さに共感、親御さんの不安・心配を受け止めよう。

家庭への要求はしない（ひかえる）。学校での支援を準備してから話し合おう。

「一緒に専門家の所に行って、適切な指導の在り方について聞いてみませんか」

図１　研修会「まとめ」のスライド

特別支援教育に関する研修をあまり受けたことがない対象者が多い場合には、「発達障害理解」に重点を置き、「児童の困難さの疑似体験」を演習として組み込んでいる。図１は研修会で使用したまとめのスライドである。

２）ケース会議演習型

指導に困っている教師は「どうすればいいか」と悩んでいることが多い。「どうすればいい」「どうしたらいい」の前に「どうして○○

するのか」を考える考え方を身につけるための模擬ケース会議を行う。ケースは筆者が経験した実際のケースを基に筆者より提案する。「行動の理解と支援方法の考え方」を教師集団で考えていく演習となり、学年会や校内委員会でケースを話す際にもすぐに利用することができる。また、行動の背景を併せて考えることで指導後の評価や指導の見直しが行いやすくなってきた。

3）基礎・演習タイプ研修会参加者の変容

研修会後に実施した振り返りシート（アンケート）に記入された内容を以下に紹介する。

・保護者に対して担任の困っていることばかりを伝えてしまっていた。
・学級全体の落ち着きには、一つ一つの細かくわかりやすい指示と、タイミング良くほめることが大切だということがわかった。
・指示を出すときに、具体的に言ったり、望ましい行動を言うようにしたりしたいと思った。「ちゃんとそうじしなさい」ではなく、「～を△△してね」など。どのような子も具体的な指示があると動きやすいと思った。
・「子どもの行動には必ず理由がある」…理由をしっかり見つけようという態度をもつことが大切。
・子どもたちが何に困っているか、一人一人の実態を把握して支援を考えることの大切さを学びました。診断名が○○だから「～する」と思っていましたが、同じ診断名でも子どもによって困っていることは違うし、効果的な支援も異なるとわかりました。
・「北風と太陽」つい結果を急いで力ずくでさせようとしてしまう。機を見つける目をもっと開かなければ！と思います。
・落ち着きのない子どもへは、つい強く叱りつけたり、脅しを使ったりしがちでしたが、2学期は私自身が変わり、子どもを変えていこうと思います。
・いいところ、頑張った所を親に細かく伝えていくと、母親がニコニコ→子どもにいい気持ち→学校でも頑張る、という循環になることがわかりました。
・実際にADHDの疑似体験をすることで、困っていること苦手なことが努力で何とかなるものではないとわかりました。混乱する状態を作らない、困ったときに自分をコントロールする力をつけることを目標に指導していきたいです。
・今までのやり方で、できる限り他の子たちと同じ支援でできるようにしていきたいという私の考えは間違っていたと思いました。
・子どもを変えるために自分が変わらなければと感じた。もっと子どもを多面的にとらえていこうと思う。
・「困った行動」と「原因」「手だて」を出し合った、あの方法が今後一番役立ちそうな気がします。

2．主体的・実践的タイプ

1）ケース会議助言型

当該校のケースについて、ケースの提案の仕方やケース会議の進め方を事前にコーディネーターに助言をおこなう。ケースについて参加者全員が共通理解できるよう参加者の質問によってケースの実態がより理解されていく、インシデントプロセス法を参考に進めていく。まず、参加者個人で行動の背景と支援方法を考えた後に少人数のグループで意見交換をする。その結果を全体に発表し交流する方法をとる。助言者は、質問の場面やグループ討議の場面でも、質問を行うことで話を全体に広げていく。最後に提案者から、今日の会議を受けての感想と実際に取り組めることがらについて発表する。助言者からは、対象児童のアセスメントとともに、校内委員会での今後の作業や話の進め方についても助言し、当該校内で力を合わせて解決していく方途を示していくとともに、今後もいつでも相談にのることができることを伝える。

このタイプの研修は、教師が問題を共有しながら学校独自の支援を確立していく手続きに直

結している。教師たちが校内で独自に解決のための方策を主体的に計画実践しやすくなるものである。

2）主体的・実践的タイプ研修会参加者の変容

研修会後に実施した振り返りシート（アンケート）に記入された内容を以下に紹介する。

・１年間、６年間の長いスパンで子どもを見ていくことの大切さを学びました。
・「個別の指導計画」立案に向けての方法がわかった。
・「ケース会議資料」「引き継ぎ資料」にもつながっている「個別の指導計画」を作ってみようと思った。
・児童の行動を複数の目で見て情報を共有することができ、実態把握の仕方がわかりました。児童理解が深まったように思います。
・具体的な実践へ向けての方向性を職員で共有することができた。
・これから取り組んでいく際の自信になった。
・見通しをもった指導、実践のために、定期的な計画立案と見直しの重要性が分かった。職員みんなで取り組むためにも校内委員会の持ち方を検討していきたい。

Ⅲ．全体考察

小学校における特別支援教育は、着実に教師の意識改革につながってきていることがわかる。しかし、研修会での気づきが日常の児童への指導場面でどのように活かされているのかを把握するシステムを、支援を行った特別支援学校側では今のところ持っていない。各校のコーディネーターとの連携をいっそう進めていき日頃から情報交換をしやすい状況を作っておくことが必要かもしれない。しかし、特別支援学校は、「小中学校等からの要請に応じた支援を行う」ことになっており、将来的には各小学校内で解決できていく事案が増えていくことが求められているようにも思う。そのための研修である「主体的・実践的タイプ（ケース会議助言型）」では、当該校内の教師間での協議に重点を置いていく必要がある。コーディネーターをはじめ多くの教師が特別支援教育への理解を深め実践を積み重ねていくことで質の高い支援へとつながっていくと考える。

中学校については、入学時に小学校からの引き継ぎにより配慮の必要な生徒についての情報は増えてきている。しかし、教科担任制による情報共有の難しさや「全体への指導」と「個別への指導」についての校内での共通理解が難しく特別支援教育の推進が十分とは言えない状況が見られている。校内研修の依頼に対しては、現在中学校で行われている「生徒指導」との関連の中で理解を深めていけるよう実施している。中学校では、高等学校受験や就労、社会参加など学校教育内での個に応じた具体的な支援が求められる時期でもある。生徒の実態について、家庭との共通理解で悩んでいるケースも多くみられる。そこには、小学校の段階で、児童の実態を家庭とどこまで共有して支援できているかといった課題が見えてくる。

保護者も参画しての「個別の教育支援計画」作成に向けた取り組みの充実が、今後益々望まれる。

＜参考・引用文献＞

・高橋あつ子著　「一から始める特別支援教育『校内研修』ハンドブック」明治図書2007
・佐藤　曉著　「発達障害のある子に困り感に寄り添う支援」学研2004